



橘諸兄のふるさと・井手の町を歩く

主催 NPO 法人ふるさと案内・かも

☎/Fax 0774-76-3989

<http://furusato-kamo.sakura.ne.jp>

(集合) JR 玉水駅 9時15分 歩程:約6km

(コース) JR 玉水駅→六角井戸→地福寺→橘諸兄公旧跡→椿坂→小野小町塚→地藏院
→玉津岡神社→井提寺跡→蛙塚→玉水駅 (解散:12時半頃)

井手の玉川

JR 玉水駅すぐ南に井手町を東西に流れる玉川は日本六玉川(高野、調布、野路、野田、高槻)の一つで、井手の玉川は古来より山吹が自生し蛙が鳴く景観が多く、多くの文人・歌人に愛され、古典文学に登場する和歌は350首を数える。

この川の美しさを世に広めたのは橘諸兄氏で、政界の中心となり奈良時代聖武天皇を補佐してきた。橘諸兄は玉ノ井から岡田地区にかけて領地をもち相楽別業とよばれる屋敷をもち、山吹を植え、玉川の水を引き楽しんだと伝えられている。

“葎はふ 賤しき屋戸も 大君の 坐むと知らば 玉敷かましを” 橘諸兄 万葉集巻19

(むぐらのはびこる賤しい家でも、天皇がおいでになることをあらかじめ知っておれば、玉石を敷きましたものを)



六角井戸

石板6枚を組み合わせ六角形の形をした井戸で、聖武天皇の玉井頓宮にあったと言われている。天平12年(740)12月15日聖武天皇が恭仁京に遷都した前日に玉井頓宮に到着された。この年、8月に藤原広嗣の反乱が起こり、10月には東国地方(伊賀・伊勢・近江)へ行幸された時である。



地福寺 (有王山地福寺)

浄土宗、本尊:地蔵菩薩 有王山は橘諸兄の曾孫有王が住んでいたと伝えられている地で、天平勝宝5年(753)、橘諸兄により創建され、のちに現在の地に移る。江戸期慶長年間に火災で焼失し、正保2年(1655~1658)に再建される。境内には橘諸兄と正室の藤原多比能の供養塔(五重塔、三重塔)がある。本尊の地蔵菩薩立像は諸兄公の念持仏といわれている。その右側に阿弥陀如来像、左側には橘諸兄の位牌がある。



橘諸兄公旧跡

地福寺の東方に井手山地が連なり、裾野の扇状地に石垣地区の水田が広がる。山麓には後期古墳が十ヶ所確認されている。竹林にある北大塚古墳が橘諸兄のものといわれている。

諸兄公は31代敏達天皇の5世の孫に当たり、父 美奴王、母 県犬養三千代で天武13年(685)に生まれ、光明皇后の異父兄である。天平15年(743)左大臣となり天平勝宝8年(756)まで奈良時代の全盛期を首班として活躍する。聖武上皇崩御の翌年、天平勝宝9年(757)逝去。

椿坂

古代から中世にかけて人々が往来した大和路（山背古道）椿坂は『大和物語』（10世紀中頃）のうたの舞台となる。奈良の三輪に向かう官人が玉川畔で美しい幼女に出会い、大きくなった時迎えに来るからと、愛の形見に帯を取り替え、7～8年後同じ場所で再会したという。

周辺に「石橋」の地名を残し、奈良大安寺の創建瓦を焼いた石橋瓦窯跡遺跡がある
"解きかえし 井手の下帯 行き廻り 逢ふ瀬うれしき 玉川の水" 藤原俊成

小町塚

玉津岡神社の参道東側に自然石を積み重ねた塚。小野小町は出羽の郡司の娘で、淳和・仁明天皇に仕えた。平安時代の歌人「六歌仙」の一人で多くの歌を残し、小町伝説は各地に残されている。30代で役を辞し、晩年、仁明天皇の母である檀林皇后が橘奈良麻呂の孫にあたることから、橘氏の氏寺・井提寺に住み、井提寺別当の妻となり（謡曲拾葉集より）、69歳で没したと「冷泉記」に記されている。

香も なつかしきかな 蛙鳴く 井手のわたりの 山吹の花" 小野小町



地藏禅院

曹洞宗 本尊：地藏菩薩像

井手の町を一望できる高台にあり、樹齢約280年のしだれ桜の大木が見える。（京都名木十選、京都府指定天然記念物）享保12年（1727）に植樹されたもので、京都市丸山公園のしだれ桜の親木と姉妹木といわれ、当院の境内にあった先代の親桜から株分けしたものとされている。



玉津岡神社

主神：下照比売命（しもてるひめ・家内和合の神）元は椋本天神社で540年の創建で、奈良時代に橘諸兄が現在地に再建したと伝わる。明治11年に各地区にあった4社が八王子社に合祀され、翌年、玉津岡神社と改称される。本殿は極彩色の彫刻、檜皮葺の春日造りで貞享4年（1687）に再建された。境内には楠正成公（橘諸兄の一族）を合祀した橘神社がある。



井提寺跡

円提寺（えんだいじ）とも呼ばれ、橘諸兄は天平元年（729）山背国班田司となり、玉川南岸石垣の地に館を構え、上井手台地の南端に氏寺として建立した。井提寺は東西・南北160mの規模で、三重塔や金堂等七堂伽藍の整った寺とされる。井手の里を一族の本拠地とした。その繁栄ぶりは康治2年（1143）の「山城国井提郷旧地全図」にみられる。周辺推定地から軒丸瓦が出土し、井提寺のものとされる礎石が残されている。



蛙塚

井手の里は古来より山吹と共に蛙の名所としても知られ、井手を歌った和歌の中で蛙に関するものは83首が数えられる。昭和28年の南山城水害で全滅してしまっただが、近年老人クラブ協議会によりカジカガエルの復活に乗り出した。現保育園の地が玉井寺跡（明治6年廃寺）にあたり、石碑が建てられている。

"あしびきの山吹の花ちりにけり 井での蛙は いまや鳴くらん" 藤原興風

